

「ぼくら地球の未来っ子」

神奈川県平塚市立松原小学校（JOCV15-1） 清水大格

松原小学校区には、様々な国籍の人たちが居住されている。外国の事情に詳しい人に話を聞いたり、外国の人に話を聞いたりする中で、「同じこと・違うこと」に気づき、受容していく態度を育てたい。

年間活動計画	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	お世話になった人たちへ										
	調べよう世界の国と人	深めよう聞いてみよう	ベトナムの小学生と交流しよう								

（1）単元の目標

- 1、異文化や異なる文化をもつ人々に興味を持ち、受容しさらに関係を深めようとする
- 2、考えや文化を交流し合う中で、自らの考えや意見を自ら発信し、具体的に行動しようとする。

（2）単元の位置づけ

総合は3年生の時に日本の都道府県に関して学習を進めてきた。それぞれの土地の持つ違いや同じことに気づき、学習をさらに世界へ広げていこうという流れになった。学級には両親が外国籍の児童が数名おり、外国に対する興味がもともと深かったことや、担任が協力隊OVであることも少なからず関係している。

いずれにせよ、日常生活や日々の授業、外部講師による異文化に対する驚きや戸惑いがよい方向での学習への刺激となるようにしていく。同時に、受容する心やさらに関係を深めるために考え・意見を発信しようとする態度を育成する。

（3）主題に迫るために

①体験的な活動の場を設ける

発達段階を考慮し、体験的に学習できる場を設ける。たとえば、実際にその国の料理を食べたり、衣装を着たり、イメージするその国の様子を絵にしたり、さらには同世代の児童と交流したり、といったことである。

②体験後のつながりを大切にする

関係を深めるために、一回だけの対面ではなく複数回を想定した場の設定をする。交流したときにふり返りをする。それを元に次回につなげるためにどうすればよいのかを検討する。よりよい次回をつくるためであるが、副次的に相手との関係の構築に繋がればと思う。

③事前事後に練り合う

小レポートや小発表会を通して、その活動や体験を通してどう思ったのか、感じたのかをまとめ、考えや意見を交換するなど共同して学ぶ場を設ける。

(4) 本単元第4学年の年間活動計画 (全60時間)

	学 習 活 動	手だて
1次	<p>①調べよう、世界の国と人 (8時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界にはどんな国があるのか調べる 世界の国旗を調べる国の場所を地図で確認する 調べたい国の事情を知る人、知る団体に手紙を書き、講師依頼を書く 担当する人、機関を決め、全体の進行、調整をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の個人的な知り合いや地域の団体を整理しておく。
2次	<p>①深めよう聞いてみよう～外国の人のお話～ (6時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> インドネシアの話 (アナックアグンさん・保護者) ロシアの話 (リュウダさん・地域の人) <p>②深めよう聞いてみよう～外国に詳しい人のお話～ (8時間)</p> <p>(ベトナム協力隊員OBの担任の話も含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> カナダの話 (本庄さん・保護者) ベトナムの話 (清水大格 ベトナムOV) ジンバブエの話 (深山さん ジンバブエOV) モンゴルの話 (加藤さん モンゴルOV) 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に来られる方の国を児童が調べておく。ある程度の知識と興味がある状態で話を伺う ふり返りで様々な感じ方があることを知る。
3次	<p>①ベトナムの小学生と交流をしよう (6時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> どんな交流にしたいか (手紙、電話、インターネット) ベトナム語をどうする?文化は? (高橋さんの話 ベトナムOV) 一緒に絵を描こう (巨大壁画の交換) <p>②ベトナムの小学生に伝えよう (8時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> わたしたちの平塚、どんなことを伝えよう (七夕祭り、湘南平、松原小、須賀港、海、そして私たち) 似顔絵作成、風景画作成 漢字クイズ、七夕劇、ネットじゃんけん ベトナムインターネットライブ交流1回目 (高橋さんの協力) <p>③これから (4時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> 思ったこと、気づいたこと インターネットでできること、できないこと。次回へ向けて 	<ul style="list-style-type: none"> できること、できないことを話し合う その上でどういう交流をしたいか考える。 自分たちの思いを整理し、伝えたいことへとつなげる。 反省をふまえ、よりよい交流を考える。
4次	<p>①気づいたことを深めよう、ふくらまそう (8時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ニンソン小の絵で伝えたいこと (平塚のまち、松原小、私たちの作品) ベトナムインターネットライブ交流2回目 ふり返って <p>②お世話になった人たちへ (12時間、年間通しての活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> お礼の手紙 活動の報告 	<ul style="list-style-type: none"> 前回の交流をふまえ、発展させていく。 手紙の書き方や発表の仕方を国語と関連させ学習する。

(5) 指導上の工夫とポイント

①地域をいかした学習

松原小学校は明治15年(1882年)創立である。今年で124年目を迎えた、平塚でも最も古い学校の1つとあってよい。何世代にもわたってこの地に住んでいる家庭が多くおり、学校を大切にする気風が強い。学校、保護者、地域が一体となって子どもたちの健全育成にあたっている。また、隣には平塚市国際親善課があり、地域にも外国事情に詳しい方が何名か居住されている。

そうした実態を踏まえ、まず地域の方がゲストティーチャーを引き受けて下さるかどうかの打診をし、多く引き受けていただいた。学校の教育活動全体で、地域をいかした教育が継続して積み重ねられている。

② 既習内容との関連

平塚という自分たちの町の学習が進んでいたことも大きい。七夕祭りをはじめとする地域の行事や、湘南平や相模川など自然を活かした観光地を多くの児童が知っており、自分たちの地域に対する誇りや地域愛も芽生えていた。伝えたい特色が明確にあったこと、またそうした特色が多くある地域であったこともベトナムライブ交流をはじめ、総合的な学習全体を深められた1つの理由になった。

③ ベトナムや他国協力隊とのつながり

ベトナム側の現職教員である真田隊員、森脇隊員、さらに私の後任向山隊員や同期隊員とのつながりが本計画以前からあった。そのため、日常からベトナムの話がもたらされ、タイムリーな情報も自然と児童の耳に入っていた。大人を介した交流から、直接的な児童対児童の「ライブ交流」への発展は、自然な気持ちの高まりである。

また、モンゴルやジンバブエなどのOVも講師をして下さり、協力隊全体の活動やベトナム以外の国の様子なども学習することができた。

(6) インターネットライブ授業、本時案(11月8日・日本時間10:00~11:00)

i) 役割

【日本側】	【ベトナム側】
清水：連絡調整、児童指導、通訳	真田：児童指導、ベトナム側連絡調整、総括
高梨：総括、児童指導	森脇：パソコン操作
高橋：通訳、パソコン操作ボランティア	割田：Webカメラ操作
記録(ビデオ・写真・webカメラ、マイク)	齋藤：記録(ビデオ)、通訳
	村田、向山：記録(写真)、児童指導、通訳

日本側の記録や機器操作はすべて児童が行った。当日は交流以外にもベトナムOVの高橋隊員によるベトナム語講座やノン笠づくりも行われ、ベトナムづくしの1日であった。

ii) 準備物

紹介に必要な児童作品、巨大壁画、ヤフーマessenger、スカイプ、webカメラ、webマイク、DVDビデオカメラ、デジカメ、グローバルIP取得用ケーブルモデム

iii) 当日案

めあて		
①海外に住む子どもたちとの交流を通じて、異文化理解を深める。 ②自分の意見や考えを発信しようとする態度を育てる ③自分たちの学校・地域を見直すきっかけとする		
時間	子ども	指導上の留意点 (★は評価)
10	司会 2名 ◎はじめの言葉 順番：日本→ベトナム側 【日本側】 (実行委員長) 【ベトナム側】 (代表) ◎学校・故郷紹介 【日本側】 学校紹介 (プール、行事、ようす、授業) ふるさと紹介 (平塚・七夕紹介) 【ベトナム側】 学校紹介 (建物、先生、私たち) ふるさと紹介 (ニンソン村の風景、特徴)	音声不可能的な場合はチャットにて交流を進める ○司会のやり方、進め方を国語単元で学習した上でそれを踏まえて進める ○ベトナムと日本の違いや同じことなどを気づいたら記録する。(気づきメモ) ※断線時※ 【日本側】 気づきメモの発表、意見交換 【ベトナム側】 日本の伝統的な遊び (剣玉、だるま落とし) を体験しよう。 ★相手にわかりやすく、発信・発表ができていたか。 ○相手の壁画に対する思いを聞き、相手の考えを知る ○自分たちの壁画に対する思いをつたえる ○相手の様子を見ながらゲームを進める。
30	◎ 松原・ニンソン巨大壁画 ~気づいたこと・ききたいこと~ 担当：実行委員	○相手の様子を見ながらゲームを進める。
15	◎ふかめよう 【日本側】 漢字クイズ・じゃんけんゲーム (ベトナムの児童と一緒に) など 【ベトナム側】 歌の発表	★自分の考えや感じたことをまとめることができたか
5	◎児童おわりの言葉 【日本側】 (代表) 【ベトナム側】 (代表)	★ベトナムの学校や文化について理解を深めることができたか

(7) 総合的学習の成果

- ・ 様々な国の文化に対する興味関心が深まっており、家に帰ってからも自主的に情報を集めたり、紹介したりしている。
- ・ 自ら考え行動し、活動に積極的に関わろうとしている。次回活動をよりよいものにしようとする姿勢が見られる。

(8) 当日の様子と課題

内容：

- ① はじめの言葉
- ② 学校ふるさと紹介
- ③ 壁画の紹介
- ④ ゲーム（漢字クイズ、七夕紹介、じゃんけんゲーム、歌）
- ⑤ 終わりの言葉

交流時間は60分。上記で30分以内に終わるように見ていたが、実際に通信をしてみると思った以上に時間がかかった。最初の10分の遅れを差し引いても20分超過した。内容の精選が必要だと感じた。やりとりは生き物なので、盛り上がるどころ、そうでないところを見極めた進め方が必要。

場所：

交流場所はコンピュータールームを使った。2クラスの人数が集まることが可能な場所、ネットワークが使える場所、という2条件をクリアした場所だった。

壁画：

日本側の壁画を送付後、ニンソン小で完成させることになっていた。そのため、松原小では50%の仕上げにした。同じようにニンソン小から50%の絵が送付されてきた。それを次回交流のときまでに完成させ、意見交換をする。全員で仕上げるといふ難しさを孕みながらも、みんなの意見を実行委員がうまくまとめてくれた。

画像：画像は、教室前にあるプラズマTVと一斉送出での各個人PCを用いた。プラズマはプロジェクタと比べると明かりに強いのでよかった。また、各個人のPCもチャットの内容を確認できてよかった。ソフトはヤフーメッセンジャーを用いた。ただ、あまり長時間ディスプレイを見続けるのも児童には負担と感じた。そういった意味でも交流内容の精選は必要だろう。

音声：PCをプラズマTVから出した。ソフトはスカイプ。しかし、ベトナム側の通信回路が54.6kbpsということもあり、断線することが多かった。「聞こえればラッキー」と思っておいたほうが良いが、聞こえたときのベトナム語のインパクトは非常に大きかった。

全体をふり返って：

- ・ 音声はほとんどつながらないと考えてプランを立てたほうがよい。
- ・ 学校やふるさとの紹介も文字が中心になると伝わりにくい。絵や大きな写真が必要。
- ・ 交流時の説明や紹介文は短くするのが良い。訳が大変だし、やりとりが生まれにくい。結果、児童の集中が途切れやすい。
- ・ ベトナム側が出した壁画に関するクイズが盛り上がった。シンプルでよかった。また、画像の不鮮明さからくる誤解が日越双方の笑いを生んだ。
- ・ 不測の事態が起きることを前提に計画を立てるべきだった。今回、ベトナム側から日程変更希望が直前に出されたが、日本側はその週が非常にタイトなスケジュールになってしまっており、対応できなかった。また、当日も開始が遅れて気をもんだが、「そういうもの」と思っておいたほうが良い気がする。保護者やメディアに露出がある場合は、それも含んだ連絡が望ましい。
- ・ 市教委、市教育研究所、ケーブルネットワーク会社、それから筑波大学の協力があって実現させることができた。機器の無料貸与やそれに関わる交渉、人の繋がりがより良い方向へ動いた。
- ・ 現地の協力隊員が現地職場から絶大な信頼を受けていることが大きな成功要因となった。
- ・ 日本国内同士のライブ交流も面白いと思う。もし来年度可能な方いらしたら連絡ください。

(9) 児童の感想

今日はベトナムの子どもたちと交流をしましたが、どうでしたか？

- ・ 楽しかったです。その日に近づいたときにきんちょうしたけど、ベトナムのニンソン小学校と交流できて楽しかったです。次が楽しみです。
- ・ みんなおもしろい子で楽しかった。
- ・ じゃんけん大会とクイズが楽しかったです。ベトナムのニンソン小の人たちは絵がうまくてびっくりしました。漢字クイズはしっかりと何の漢字になるのかあてていたのですごかったです。
- ・ たまにしゃべるのが早くてパソコンが追いつかなかったり、声が聞こえなかつたりしたけど、いろいろと助け合い、いい交流ができたと思います。
- ・ ニンソン小と交流して、ベトナムにますます行きたくなりました。
- ・ 声がつながったのが良かった。
- ・ ベトナムの教室の子どもたちはけっこうにぎやかでおもしろい子たちだった。日本の先生たちにも先生の日を作ってあげたいです。
- ・ ベトナムの食べ物やベトナムの事が分かってうれしかったです。問題を出されて考えたけど、それもまた楽しかったです。とくににわとり遊びがケンケンだったのがびっくりしました。
- ・ ベトナムの人たちはちゃんとせい服を着ていたから、すごいなと思いました。ベトナムの絵はとても楽しかったです。私の思っていた服とちがうから、へえーと思いました。ベトナムの人たちたのしー！。
- ・ ベトナムのことがいろいろ分かって、よかったです。インターネットで交流し、巨大へき画の説明を日本、ベトナムでしました。ベトナムのフー君がベトナムのいいところを教えてくださいました。学校の近くには、きれいな川が流れているそうです。
- ・ ベトナムの人たちと交流して、ベトナムの言葉が少しだけ分かりました。楽しかったです。また、ニンソン小の子たちと交流できたらいいなあと思います。
- ・ 日本と同じで、バラがあると思わなかったです。漢字クイズがすぐにわかっていたのでおどろきました。

次にベトナムの子どもたちと交流をするとき、どんなことをしてみたいですか？

- ・ 今度はベトナムじゃんけんのやり方を教えてほしいです。
- ・ もっと大きな声でゆっくりと話す次回交流がもっと良くなると思います。次はベトナムの人の遊びを教えてくださいたいと思います。
- ・ 今度は、自分の特技を見せ合いたいと思います。(得意なこと 絵をかくこと)
- ・ ベトナムのふるさとをもっともっとくわしく知りたいし、日本のふるさとを教えてくださいたいです。
- ・ 2月はベトナムの人ともっと遊びたいと思います。
- ・ できたらベトナムの人が松原小学校にきてほしいです。(むりかもしれないけど)
- ・ 交流して聞けなかったことがあるから、今度はもっと質問していろいろ聞きたいです。たとえば、食べ物は何をたべる？とか聞いてみたいです。
- ・ 勉強していることを教えてもらったり、ベトナムの遊びや、日本の遊びをいっしょにやりたいです。
- ・ ベトナム語を教えてください。
- ・ 次はノン(ノン笠)をみんなでかぶりながら交流したいです。(15-1 高橋道陽隊員の授業で画用紙ノンを作りました)